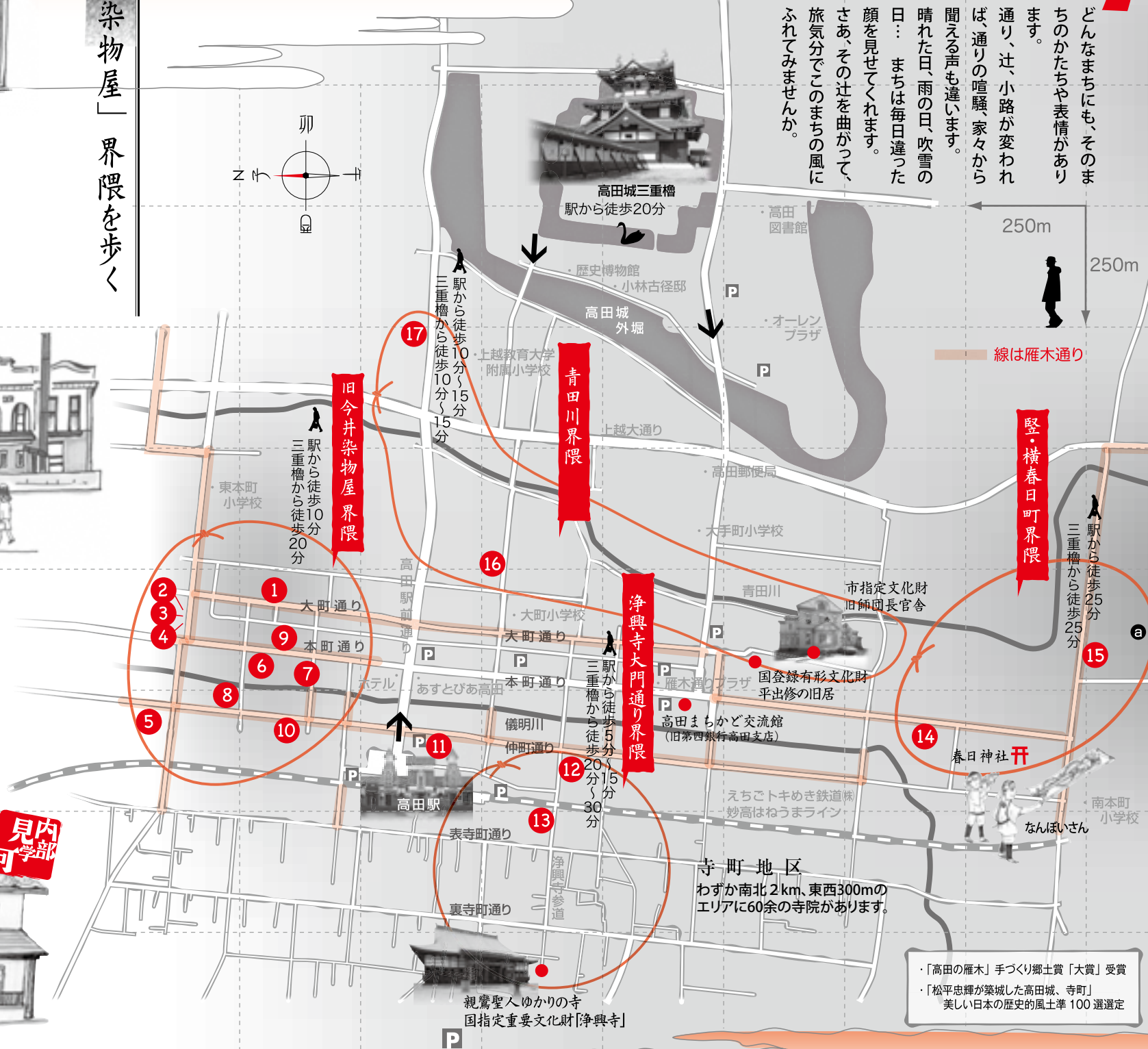


高田まちの歴史散策

其之参

どんなまちにも、そのまじのかたちや表情があります。通り、辻、小路が変われば、通りの喧騒、家々から聞える声も違います。晴れた日、雨の日、吹雪の日……まちは毎日違った顔を見せてくれます。さあ、その辻を曲がって、旅気分でのまちの風にふれてみませんか。



「高田の雁木」手づくり郷土賞「大賞」受賞
「松平忠輝が築城した高田城、寺町」美しい日本の歴史的風土100選認定

※11は公開日以外の見学は事前申込みが必要です。詳しくは文化振興課(025-526-6903)まで。

見学可

見学可

印は、上越を舞台にした映画「ふみ子の海」ロケ現場



「旧今井染物屋」界隈を歩く

1 「旧今井染物屋」
黒い格子が残る大型の町家。十九世紀中頃に建てられた商家で、雁木は古い形式といわれる造り込み式です。江戸時代から染物屋を営み、多くの職人や使用人が住み込みで働いていました。

2 麻屋高野店舗兼主屋 (国登録有形文化財)
大きな吹抜けと渡り廊下、座敷から続く縁側と庭の風情は格別。現在は「替女ミュージアム高田」として改装し、替女の資料を展示しています。

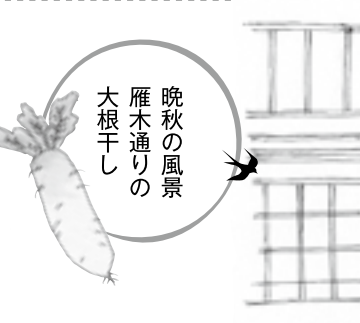


「旧今井染物屋」界隈を歩く

3 間口の広い昔からの町家を再生した呉服店。二階の広い座敷から見れば、堂々たる吹抜けの梁組に、清楚な白壁と渡り廊下の調和が見事です。



4 母屋の表二階に広い座敷があり、中庭と明治三十七年築の土蔵が見られます。庭に面する細長い土間と縁側も心地よい雰囲気です。



5 「味噌醤油店」
老舗の味と香り。弘化元年(1844年)創業。ガラス戸を開けばお醤油の香りに包まれます。火災後の昭和初期改装ですが、古い土蔵や大きな石の水盤、昔通りの味噌つくりの道具は現役で、雁木の古い舗石と木製ベンチも風情たっぷり。

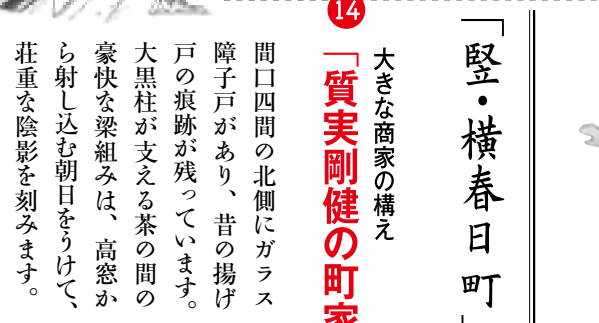


「浄興寺大門通り」界隈を歩く

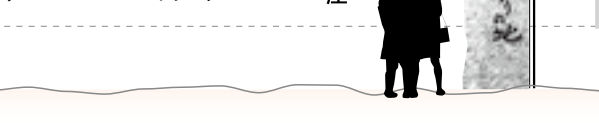
12 「料亭・宇喜世」
国登録有形文化財
百年以上も続く老舗料亭で、師団の高官達が三階の座敷から金谷山を望んだといわれます。大門通りの茅葺門と塀、池や樹木が時代を語ります。豪華絢爛な室内は凝った装飾が施され、なかでも日本の大理石彫刻の創始者、北村四海の木影欄間は見事です。



13 「料亭」
粋な黒塀に見越しの松。昔は田端町(現在の仲町)で営業していましたが、明治中期に現在地に移転。広い庭園と数寄屋の料亭です。

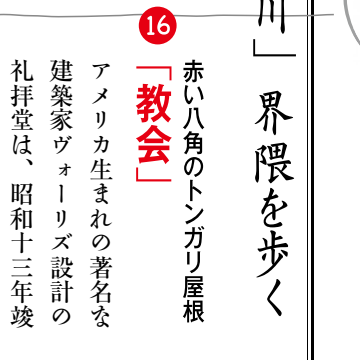


14 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

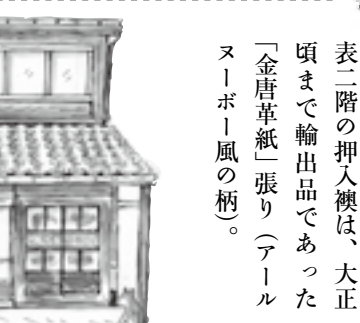


「浄興寺大門通り」界隈を歩く

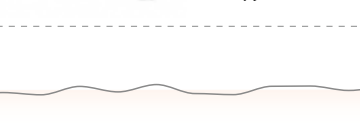
16 「教会」
赤い八角のトンガリ屋根。アメリカ生まれの著名な建築家ウォーリス設計の礼拝堂は、昭和十三年竣工の珠玉のような建築で、現存する新潟県内唯一のウォーリス作品。



17 「旧侍屋敷」
尾崎行雄の足跡を刻む。数少ない江戸後期神原藩時代の侍屋敷遺構。戦時中には「憲政の父・尾崎行雄(号堂翁)」が逗留して、「無量庵」の銘を残しました。



18 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

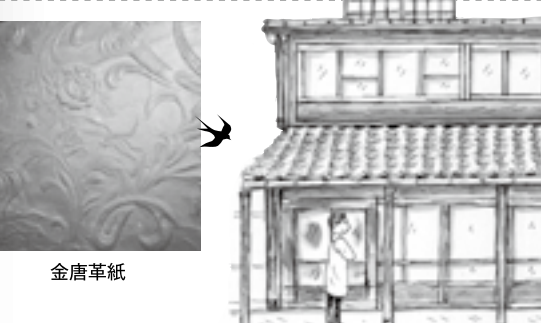


「浄興寺大門通り」界隈を歩く

19 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。



20 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。



21 「旧金津憲太郎桶店」
職人の仕事場と暮らし。江戸時代後期の町家。桶職人の仕事場や土間のみなどなど、懐かしい暮らしの様子が見られます。



「浄興寺大門通り」界隈を歩く

6 「高田世界館」
明治大正浪漫のレトロ劇場。国登録有形文化財。明治の末に陸軍第十三師団を誘致した頃から、西洋風の旅館や娯楽施設が流行しました。正面の軒飾りやアーチ窓が目惹く。映画館は、明治四十四年に芝居小屋「高田座」として建てられたものです。

7 「旧洋食店」
飾り窓の華やかな洋風建築。明治三十八年の建築当初は「牛丸」が屋号の牛肉販売兼洋食店。ハイカラなお客で賑わいました。奥は住居で、風呂場の九谷焼タイル絵には金谷山でスキーをする様子もや錦鯉が描かれ、洒落た暮らしが偲ばれます。

8 「大鋸町ますや主屋」
頸城野郷土資料室。国登録有形文化財。低い屋根の造りは「差し掛け」とい、二階建て禁止であった江戸時代の名残です。頸城平野の郷土史とまちづくり活動を研究支援するNPO法人の拠点。

9 「町家交流館 高田小町」
まち歩き拠点に。明治の町家三軒分の間口に、立派な鬼瓦を載せた大屋根と土蔵のある商家を再生活用した交流施設です。各種の催し会場や、城下町高田のまちなか散策の休憩・案内所としてご利用ください。(入場無料、トイレあり)

10 「幸村家住宅主屋」
職人の技が光る。国登録有形文化財。元鉄工場主の住まいであり、見事な機織りの吹抜けと、漆塗りの箱階段、渡り廊下、自作の鉄製手摺は必見。また、和室の造作と繊細な建具も、大正浪漫を奏でています。

11 「旧金津憲太郎桶店」
職人の仕事場と暮らし。江戸時代後期の町家。桶職人の仕事場や土間のみなどなど、懐かしい暮らしの様子が見られます。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

12 「料亭・宇喜世」
国登録有形文化財
百年以上も続く老舗料亭で、師団の高官達が三階の座敷から金谷山を望んだといわれます。大門通りの茅葺門と塀、池や樹木が時代を語ります。豪華絢爛な室内は凝った装飾が施され、なかでも日本の大理石彫刻の創始者、北村四海の木影欄間は見事です。

13 「料亭」
粋な黒塀に見越しの松。昔は田端町(現在の仲町)で営業していましたが、明治中期に現在地に移転。広い庭園と数寄屋の料亭です。

14 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

15 「高橋あめや」
江戸中期創業の老舗飴屋。国登録有形文化財。十返舎一九の「諸国道中金の草鞋」に、「評判は高田の町に年を経て豊かに澄める水飴の見世」として登場する飴屋。奥の土蔵以外は明治七年の火事で焼失し、翌八年に再建。能生から山一つ分の材を筏組で運び、高田城の旧材も譲り受けたと聞きます。

16 「教会」
赤い八角のトンガリ屋根。アメリカ生まれの著名な建築家ウォーリス設計の礼拝堂は、昭和十三年竣工の珠玉のような建築で、現存する新潟県内唯一のウォーリス作品。

17 「旧侍屋敷」
尾崎行雄の足跡を刻む。数少ない江戸後期神原藩時代の侍屋敷遺構。戦時中には「憲政の父・尾崎行雄(号堂翁)」が逗留して、「無量庵」の銘を残しました。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

18 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

19 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

20 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

21 「旧金津憲太郎桶店」
職人の仕事場と暮らし。江戸時代後期の町家。桶職人の仕事場や土間のみなどなど、懐かしい暮らしの様子が見られます。

22 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

23 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

24 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

25 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

26 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

27 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

28 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

29 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

30 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

31 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

32 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

33 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

34 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

35 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

36 「教会」
赤い八角のトンガリ屋根。アメリカ生まれの著名な建築家ウォーリス設計の礼拝堂は、昭和十三年竣工の珠玉のような建築で、現存する新潟県内唯一のウォーリス作品。

37 「旧侍屋敷」
尾崎行雄の足跡を刻む。数少ない江戸後期神原藩時代の侍屋敷遺構。戦時中には「憲政の父・尾崎行雄(号堂翁)」が逗留して、「無量庵」の銘を残しました。

38 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く

39 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

40 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

41 「質実剛健の町家」
大きな商家の構え。間口四間の北側にガラス障子戸があり、昔の揚げ戸の痕跡が残っています。大黒柱が支える茶の間の豪快な梁組みは、高窓から射し込む朝日をうけて、荘重な陰影を刻みます。表二階の押入襖は、大正頃まで輸出品であった「金唐革紙」張り(アールヌーボー風の柄)。

「浄興寺大門通り」界隈を歩く